

2019年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年1月31日

上場会社名 日本ライフライン株式会社
 コード番号 7575 URL <https://www.jll.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2019年2月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 鈴木 啓介
 (氏名) 高橋 省悟
 TEL 03-6711-5200

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第3四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	33,757	8.4	7,691	0.4	7,643	2.9	5,446	1.5
2018年3月期第3四半期	31,152	14.3	7,718	41.9	7,873	37.2	5,367	40.8

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 5,384百万円 (0.3%) 2018年3月期第3四半期 5,402百万円 (45.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	67.73	67.60
2018年3月期第3四半期	72.13	72.06

(注) 当社は、2018年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第3四半期	62,565	44,159	70.6
2018年3月期	60,980	41,090	67.4

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 44,146百万円 2018年3月期 41,076百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		0.00		28.75	28.75
2019年3月期		0.00			
2019年3月期(予想)				29.00	29.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	46,762	10.6	10,383	2.7	10,745	0.1	7,530	0.7	93.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期3Q	90,419,976 株	2018年3月期	90,419,976 株
期末自己株式数	2019年3月期3Q	10,005,632 株	2018年3月期	10,005,616 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期3Q	80,414,352 株	2018年3月期3Q	74,414,360 株

(注)1 当社は、2018年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定し、「(4)発行済株式数(普通株式)」に記載の株式数を算定しております。

2 当社は、役員報酬BIP信託を導入しており、信託が所有する当社株式は「(4)発行済株式数(普通株式)」において自己株式として取り扱っております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
3. その他	10
生産、受注及び販売の状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間末現在において当社グループが判断したものであります。
(売上高について)

当第3四半期連結累計期間の販売実績といたしましては、2018年4月に行われた医療機器の公定価格である保険償還価格の改定による影響があったほか、仕入先の変更を公表したことに伴い、リズムデバイスにおいて既存品の販売が減少したものの、その他の品目区分におきましては、自社製品や新たに取り扱いを開始した新商品の寄与により、前年同期に比べ売上高が増加いたしました。

リズムデバイスにおきましては、当連結会計年度の期首からの一部商品の供給不足に加えて、2018年8月に仕入先の変更を公表したことに伴い、既存品の販売が減少いたしました。その一方で、EP/アブレーションにおきましては、心房細動のアブレーション治療の症例数の増加を受けて、心房細動治療の関連商品が伸びてまいりました。外科関連におきましても、腹部用ステントグラフトやオンリーワン製品であるオープンステントグラフト等をはじめとする人工血管関連商品の販売が好調に推移いたしました。さらに、インターベンションにおきましては、バルーンカテーテル等において、公定価格引下げや競合製品による影響を受けたものの、2018年3月より販売を開始した薬剤溶出型冠動脈ステントの寄与により売上高が増加いたしました。

以上により、当第3四半期連結累計期間の売上高は337億5千7百万円（前年同期比8.4%増）となりました。

品目別の販売状況は以下のとおりです。

<品目別売上高>

(単位：百万円)

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	増減率
リズムデバイス	5,611	4,575	△18.5%
EP/アブレーション	15,084	17,055	13.1%
外科関連	8,221	8,583	4.4%
インターベンション	2,234	3,543	58.6%
合計	31,152	33,757	8.4%

※各品目区分に分類される主たる商品は以下のとおりです。

リズムデバイス	心臓ペースメーカ、ICD（植込み型除細動器）、CRT-D（除細動機能付き両心室ペースメーカ）
EP/アブレーション	EP（電気生理用）カテーテル、アブレーションカテーテル、内視鏡レーザーアブレーションカテーテル、心腔内除細動カテーテル、食道温モニタリングカテーテル、高周波心房中隔穿刺針
外科関連	人工血管、オープンステントグラフト、ステントグラフト、人工心臓弁、人工弁輪、血液浄化関連商品
インターベンション	バルーンカテーテル、ガイドワイヤー、貫通用カテーテル、心房中隔欠損閉鎖器具、薬剤溶出型冠動脈ステント

(リズムデバイス)

リズムデバイスにおきましては、2018年4月の公定価格引下げや遠隔モニタリング装置の供給が不足したことによる影響に加え、2018年8月に仕入先の変更を公表したことに伴い、心臓ペースメーカ及びICD関連の現行商品の販売数量が減少し、前年同期に比べ売上高が減少いたしました。

現在、新たなリズムデバイス商品の仕入先となるボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社と2019年9月からの自社製品の販売開始に向けた準備を進めていることから、頻脈治療領域の商品群の販売を通じて、早期の事業規模の拡大を図ってまいります。

以上により、リズムデバイスの売上高は、45億7千5百万円（前年同期比18.5%減）となりました。

(EP/アブレーション)

EPカテーテルにおきましては、心房細動のアブレーション治療の症例数の増加を背景として、当社のオンリーワン製品である心腔内除細動カテーテル「BeeAT（ビート）」等の自社製品の売上高が増加いたしました。

アブレーションカテーテルにおきましては、従来から取り扱う高周波を用いるアブレーションカテーテルは販売数量の減少傾向が続いているものの、2018年7月より販売を開始した、内視鏡レーザーアブレーションカテーテル「HeartLight（ハートライト）」につきましては、2018年11月にPMS（市販後の使用成績調査）が終了し、医療機関への導入が進んでおります。バルーンテクノロジーを用いた心房細動のアブレーション治療は、今後一層の普及が見込まれることから、引き続き本商品の医療現場への浸透を図ってまいります。

以上により、EP/アブレーションの売上高は、170億5千5百万円（前年同期比13.1%増）となりました。

(外科関連)

人工血管関連におきましては、大動脈疾患を経皮的に治療するステントグラフトにおいて、腹部領域を対象とした商品である「AFX2ステントグラフトシステム」の販売数量が伸長いたしました。さらに、自社製品におきましては、胸部大動脈疾患の開胸手術に用いられる医療機器であり、当社のオンリーワン製品であるオープンステントグラフト「J-Graft FROZENIX（ジェイグラフト・フローゼニクス）」や人工血管が引き続き堅調に推移いたしました。

人工弁関連におきましては、カテーテルを用いた低侵襲治療の普及が進んでいることを受け、当社が取り扱う開胸手術を必要とする生体弁「CROWN PRT（クラウン・PRT）」の販売数量は前年同期に比べ減少いたしました。なお、人工弁関連商品につきましては、2018年11月に公表いたしましたとおり、現行契約が満了する2019年5月末をもって、販売を終了することを決定しております。

以上により、外科関連の売上高は85億8千3百万円（前年同期比4.4%増）となりました。

(インターベンション)

バルーンカテーテル及びガイドワイヤーにつきましては、公道価格引下げの影響等により、前年同期に比べ売上高が減少いたしました。

その他の品目におきましては、心房中隔欠損閉鎖器具「Figulla Flex II（フィギュラ・フレックスII）」及び貫通用カテーテル「Guideliner（ガイドライナー）」が、競合製品の影響を受けたことにより、前年同期に比べ売上高が減少いたしました。その一方で、2018年3月より販売を開始した薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro（オシロ）」につきましては、サイズラインナップの拡充や、国内臨床研究等の取り組みを行っており、販売数量が増加いたしました。

さらに2018年10月より、当社の独占販売ではないもののPCI（経皮的冠動脈形成術）治療の適切な実施をサポートする血管内圧測定用センサ付ガイドワイヤ「OptoWire（オプトワイヤ）」の販売を開始したことから、拡販に努めてまいります。

以上により、インターベンションの売上高は、35億4千3百万円（前年同期比58.6%増）となりました。

(損益について)

①営業利益

自社製品の売上構成比は前年同期と同水準であったものの、自社製品の中でも収益性の高い製品の伸長により、単体ベースにおける売上総利益率は改善いたしました。しかしながら、連結ベースにおきましては、子会社合併に伴う未実現利益の調整として、前年同期に計上した8億2千9百万円の売上総利益のプラス効果が当期には生じないことから、売上総利益率は前年同期に比べ1.0ポイント低下いたしました。また、販売費及び一般管理費におきましては、事業体制の強化に伴い人件費が増加したほか、新商品の拡販に伴う広告宣伝費や旅費交通費等が増加いたしました。

以上により、当第3四半期連結累計期間の営業利益は76億9千1百万円（前年同期比0.4%減）となりました。

②経常利益

受取利息や受取配当金等をはじめとする営業外収益を4億1千万円、投資有価証券評価損及び支払利息等を営業外費用として4億5千8百万円計上したことから、当第3四半期連結累計期間の経常利益は76億4千3百万円（前年同期比2.9%減）となりました。

③親会社株主に帰属する四半期純利益

投資有価証券売却益等を特別利益として5百万円、固定資産除却損を特別損失として1千2百万円計上したことから、当第3四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は54億4千6百万円（前年同期比1.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(四半期連結貸借対照表に関する分析)

①資産

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末に比べ46億2千3百万円減少し、356億3千5百万円となりました。これは主として、現金及び預金が17億8千万円、有価証券が59億9千9百万円減少した一方で、たな卸資産が29億6千5百万円増加したことによるものであります。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ62億7百万円増加し、269億2千9百万円となりました。これは主として、投資その他の資産のうち、長期貸付金が35億9千4百万円増加し、投資その他の資産のその他においては、長期前払費用が27億6千2百万円増加したことによるものであります。

以上の結果、資産合計は前連結会計年度末から15億8千4百万円増加し、625億6千5百万円となりました。

②負債

当第3四半期連結会計期間末の負債につきましては、流動負債が前連結会計年度末に比べ38億6千1百万円減少し、115億9千1百万円となりました。これは主として、支払手形及び買掛金が4億4千6百万円、短期借入金が10億円、未払法人税等が8億9千7百万円減少したことによるものであります。

また、固定負債は前連結会計年度末に比べ23億7千6百万円増加し、68億1千4百万円となりました。これは主として、長期借入金が増加したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は前連結会計年度末から14億8千4百万円減少し、184億5百万円となりました。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ30億6千9百万円増加し、441億5千9百万円となりました。これは主として、剰余金の配当を23億1千5百万円実施したこと、及び、親会社株主に帰属する四半期純利益を54億4千6百万円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間におきましては、売上高は計画をやや下回ったものの、売上総利益率の改善や販売費及び一般管理費の一部費用の支出が想定を下回ったことから、営業利益は計画を若干上回りました。

第4四半期におきましては、売上高及び販売費及び一般管理費につきまして、概ね計画どおりの進捗が見込まれることから、2018年11月2日に公表した連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,732	4,952
受取手形及び売掛金	12,331	11,892
有価証券	5,999	—
たな卸資産	13,579	16,545
その他	1,614	2,245
流動資産合計	40,259	35,635
固定資産		
有形固定資産	9,914	9,998
無形固定資産	576	569
投資その他の資産		
長期貸付金	3,522	7,117
その他	6,715	9,251
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	10,230	16,361
固定資産合計	20,721	26,929
資産合計	60,980	62,565
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,278	1,831
短期借入金	6,600	5,600
1年内返済予定の長期借入金	1,043	616
未払金	1,269	937
未払法人税等	1,801	903
賞与引当金	—	709
役員賞与引当金	39	21
その他	2,419	970
流動負債合計	15,452	11,591
固定負債		
長期借入金	1,117	3,330
長期末払金	190	190
役員株式報酬引当金	43	56
退職給付に係る負債	2,351	2,475
その他	735	762
固定負債合計	4,438	6,814
負債合計	19,890	18,405

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,115	2,115
資本剰余金	15,572	15,572
利益剰余金	25,091	28,222
自己株式	△1,691	△1,691
株主資本合計	41,088	44,219
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△19	△130
為替換算調整勘定	141	150
退職給付に係る調整累計額	△132	△93
その他の包括利益累計額合計	△11	△73
新株予約権	13	13
純資産合計	41,090	44,159
負債純資産合計	60,980	62,565

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)
売上高	31,152	33,757
売上原価	11,723	13,024
売上総利益	19,428	20,732
販売費及び一般管理費	11,710	13,041
営業利益	7,718	7,691
営業外収益		
受取利息	119	277
受取配当金	0	71
為替差益	47	29
その他	46	32
営業外収益合計	213	410
営業外費用		
支払利息	32	28
投資有価証券評価損	—	414
その他	25	15
営業外費用合計	58	458
経常利益	7,873	7,643
特別利益		
固定資産売却益	17	1
投資有価証券売却益	—	3
特別利益合計	17	5
特別損失		
固定資産除却損	1	12
固定資産売却損	0	—
投資有価証券売却損	3	—
工場移転費用	103	—
特別損失合計	108	12
税金等調整前四半期純利益	7,782	7,636
法人税、住民税及び事業税	2,112	2,150
法人税等調整額	302	39
法人税等合計	2,414	2,189
四半期純利益	5,367	5,446
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,367	5,446

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	5,367	5,446
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	△110
為替換算調整勘定	1	9
退職給付に係る調整額	34	39
その他の包括利益合計	35	△62
四半期包括利益	5,402	5,384
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,402	5,384

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

3. その他

生産、受注及び販売の状況

①生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績を商品区分別に示すと次のとおりであり、著しい変動はありません。

(単位：百万円)

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	増減率
リズムデバイス	24	27	14.1%
EP/アブレーション	3,428	3,981	16.1%
外科関連	1,191	1,263	6.1%
インターベンション	461	383	△17.0%
合計	5,106	5,657	10.8%

- (注) 1 金額は製造原価によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

②受注実績

当社グループの事業形態は、原則として受注残高が発生しないため、記載を省略しております。

③販売実績

販売実績につきましては、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。